

★施設園芸省エネルギー生産管理チェックシート等による改善の結果★

施設園芸等燃油高騰対策の都道府県協議会会員へのアンケート調査結果

■施設園芸省エネルギー生産管理チェックシートの利用状況調査の概要（令和4年度とりまとめ）

（一社）日本施設園芸協会を通じて、施設園芸等燃油高騰対策の都道府県協議会の会員で、施設園芸で燃油を使用している農業者に、アンケートを実施し、45名（27県エリア）から回答があった。

・回答者の構成としては、

- ① 花、野菜栽培が9割、果樹が1割。
- ② 施設園芸の設備で保温設備は、内張多層設置が6割程度。
- ③ 施設園芸の設備で加温設備は、ボイラー等暖房機利用が9割で、そのうち、ヒートポンプ併用が約5割程度。木質バイオマス暖房機利用が僅かあった。

■施設園芸省エネルギー生産管理チェックシート等による効果

施設園芸省エネルギー生産管理チェックシートでの点検実施により、①点検が定期化され、②自己の施設に対応した点検が的確に行われるようになった。

（具体的な改善内容）

①点検が定期化

・チェックシートの導入により、加温前の点検に加え、加温期間中も80%が定期点検の実施を行うようになった。

・改善された点検内容

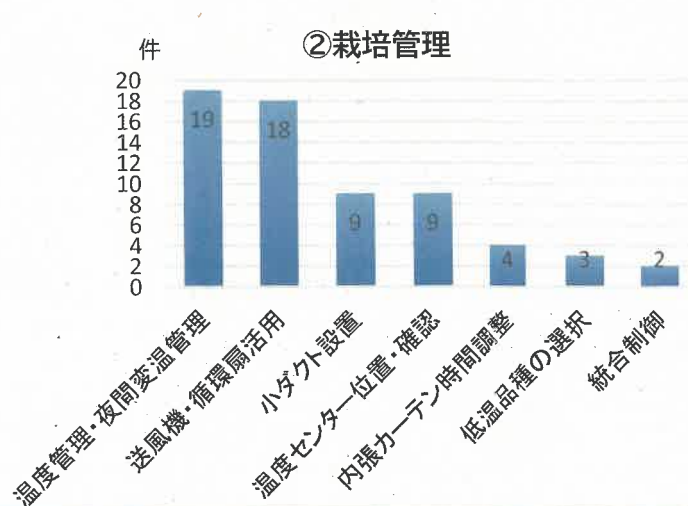
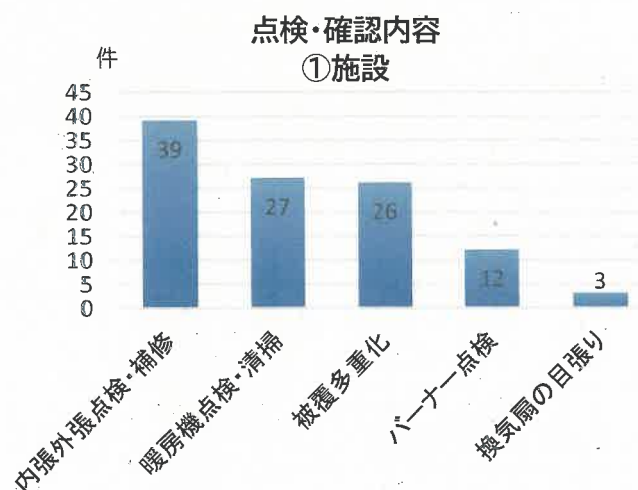
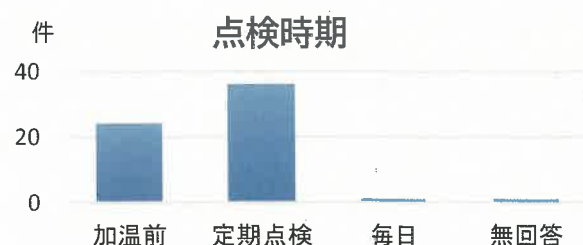
ア. 施設点検では、内張外張点検・補修が87%、暖房機点検・清掃が60%、被覆多重化52%、バーナー点検27%となっている。

イ. 栽培管理では、温度管理・夜間変温管理42%、送風機・循環扇活用40%、小ダクト設置20%、温度センサー位置・確認20%、内張カーテン調整9%、低温品種の選択4%となっている。

②燃油消費量の削減（参考1）

・チェックシートの導入により、内張外張点検・補修が定期的に実施されることなどにより、ほぼ全ての者で燃油消費量が削減されたと回答。

・回答者の燃油消費量の削減割合は、40%削減が最も多く、回答者全体の約3割となっている。



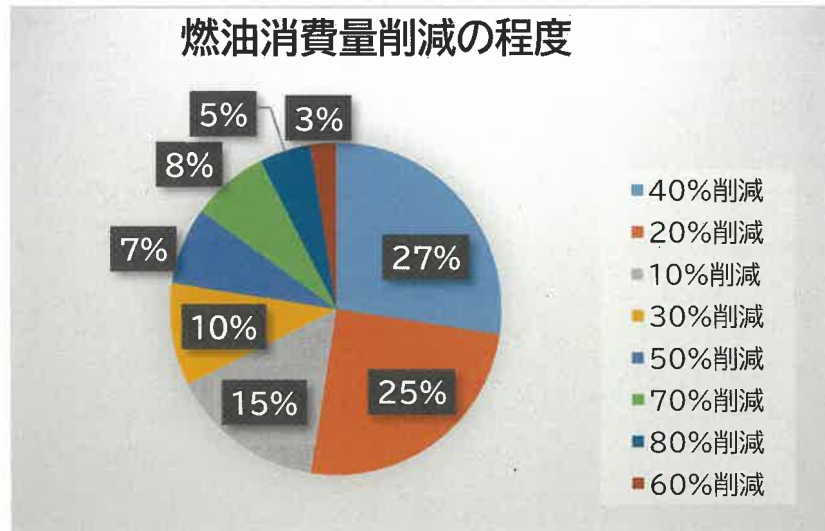
(参考1)

■燃油消費量の削減

- ・施設園芸省エネルギー生産管理チェックシートの導入による燃油消費量の削減効果

◎45名中、44名(98%)の方が、燃油消費量の削減効果があったと回答。

その削減程度は、40%削減が27%、20%削減が25%、10%削減が15%、30%削減が10%、50%削減が7%と削減効果があった。



- ・燃油消費量の削減の主な要因

- ・外張被覆、内張カーテンの設置、加温機器の自己及び業者による定期的点検清掃、循環扇の設置方法の確認の実施
- ・ヒートポンプを活用し燃油暖房器とのハイブリット運転と内張多層化などの取組を行い、燃油消費量を削減。
- ・日中と夜間の温度設定を変えた変温管理の実施。
- ・作物の栽培温度の確認、設定温度変更に伴う栽培品種の見直しなどを実施した。

